

令和7年8月25日

令和7年度

第1回大田区総合教育会議会議録

大田区役所 総務部総務課

(午後4時開会)

○総務部長

それでは、教育委員の皆様方が全員お集まりくださいましたので、ただいまから令和7年度第1回の大田区総合教育会議を開会させていただきます。

私は、4月1日に総務部長に着任させていただきました張間と申します。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

ご存じのとおり、この総合教育会議は地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づきまして、地方公共団体の長が設け、参集していただく会議となっております。

それでは、これより会議の進行は、鈴木大田区長にお願ひいたします。

○区長

大田区長の鈴木晶雅でございます。総合教育会議の進行を務めさせていただきます。

本日、皆様には、この総合教育会議を招集申し上げましたところ、お忙しい中にもかかわらず、ご参集を賜り、厚く御礼申し上げます。

本日の会議につきましては、会議録作成のため録音させていただきますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

まず、事務局から傍聴について報告があります。

○総務課長

事務局を務めさせていただきます、総務課長の鈴木でございます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

本日でございますけれども、傍聴を希望されている方が5名いらっしゃっております。

事務局からの報告は以上でございます。よろしくお願ひいたします。

○区長

大田区総合教育会議傍聴要領に基づき、本日の傍聴希望に対しては許可したいと考えますが、よろしいでしょうか。

(「はい」との声あり)

○区長

また、途中からの入場についても許可したいと考えておりますが、よろしいでしょうか。

(「はい」との声あり)

○区長

それでは、傍聴を許可することにいたします。

(傍聴者入場)

○区長

傍聴される方に申し上げます。議場における言論に対して批評を加え、または拍手その他の方法により公然と可否を表明することを禁止いたします。

ご協力のほど、お願いいたします。

それでは、会議を始めます。

初めに、大田区総合教育会議運営要綱第8条第2項において、議事録署名者は、私のほかに委員の中から会議において決定した者が署名しなければならないとされております。

本日の会議の署名者は、小黒教育長にお願いをしたいと思いますのですが、よろしいでしょうか。

(「はい」との声あり)

○区長

それでは、小黒教育長を署名者といたしたいと思います。よろしくお願いいたします。

本日の議題について、事務局から報告をお願いします。

○総務課長

お手元の次第をご覧くださいと思います。

次第の2番目、本日、区と教育委員会の協議・調整事項といたしまして議題とするものは、一つ目といたしまして、「おおたグローバルコミュニケーション（OGC）の推進について」、二つ目といたしまして、「コミュニティ・スクールの推進について」の2点でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○区長

それでは、議事を進行いたします。

総合教育会議は、冒頭、総務部長から申し上げましたとおり、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、地方公共団体の長が設けるものとされている会議で、平成27年から開催をしております。

会議では、私と教育委員会の皆様とが、教育の条件整備など、重点的に講ずべき施策や児童・生徒等の生命・身体の保護等、緊急の場合に講ずべき措置についての協議・調整を行うことを目的としております。

区と教育委員会の連携を深め、より一層民意を反映した教育行政を推進してまいりたいと思います。

本日の協議・調整事項は、一つ目として、「おおたグローバルコミュニケーション（OGC）の推進について」、二つ目として、「コミュニティ・スクールの推進について」でございます。

教育委員の皆様と、幅広く意見交換をさせていただきたいと思います。

忌憚のないご意見を賜りたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

それでは、それぞれの課題について、資料に基づき担当の課長より説明をお願いします。まず、議題1について、木下指導課長から、続けて、議題2について、齋藤教育地域力

担当副参事から説明をお願いします。

○指導課長

私からは、「おおたグローバルコミュニケーション（OGC）の推進について」ご説明申し上げます。資料1をご覧ください。

第4期大田区教育振興基本計画である、おおた教育ビジョンの基本方針1、「持続可能な社会を創り出すグローバル人材を育成します」の個別目標2、「世界とつながる国際都市おおたを担う人材を育成します」には、主な取組として、「（1）英語力の向上とコミュニケーション能力の育成～英語力に自信をもち、英語で積極的にコミュニケーションを図るこどもを育てます～」を示し、国際教育を重点的な施策として位置付けております。

OGCの事業目的は、資料にございますように、国際都市おおたの実現に資する区独自の国際教育を推進し、英語での実践的コミュニケーション能力を着実に高めるとともに、異文化に対する理解など、多様性を認め合える心情を育成することです。

国際都市おおた宣言を行った区にふさわしいグローバル人材を育成するため、英語でのコミュニケーション活動を大幅に増やし、英語で積極的にコミュニケーションを図るこどもを育ててまいります。

こうした学習を、義務教育段階で行うことで、将来、世界的な課題について英語で外国人と議論し、課題解決を図ることができることを目指していきます。そのためには、基礎的な英語を学び、積極的にコミュニケーション活動を行おうとする資質を十分に養っていく必要がございます。

主な取組を説明する前に、令和6年度取組について簡単にご報告いたします。

今後の国際教育について、区内のモデルとなる学校として、大森東小学校と羽田中学校を「おおた国際教育推進校」として指定しております。ここでは、「専門の区の会計年度任用職員、OGCティーチャーを採用すること」、「全ての英語に関する授業の中で、本物の英語に触れさせるために外国語教育指導員、いわゆるALTを外国語活動・外国語の授業に配置すること」、「圧倒的な没入感、臨場感の中で、その場面、状況で即興的に英語を用いてコミュニケーション活動を行うことができる海外体験ルームを環境として整備すること」、「学校で学んだ英語力を試す機会として、東京都が運営している体験型英語学習施設、TOKYO GLOBAL GATEWAY BLUE OCEAN (TGG)における英語体験学習を実施すること」などの取組を行っております。

大森東小学校では、昨年度、第6学年の児童が、実用英語技能検定5級を受験し、約8割が合格しました。羽田中学校では、今年度4月に実施した、大田区学習効果測定において、第1学年の英語の結果が、区内中学校の中でも上位に入りました。

昨年度から英語教育に進んで取り組むことにより、英語に興味関心の高い生徒が多く入学したことが、こうした結果につながったと考えております。

中学校第2、第3学年においても、5教科の中で英語の達成率が最も高くなるなど、英語教育に力を入れて取り組んだ成果が表れております。

その成果を他校に生かすために、資料にあります主な取組に挙げました四つの内容についてご説明いたします。

第一は、OGCルーム（海外体験ルーム）の設置を拡充することです。現在、大森東小

学校に設置しておりますOGCルーム（海外体験ルーム）は、先端技術を用いて企業との共同研究により作成いたしました。この部屋は、より実践的なリアリティのある英語学習が可能になっております。今年度は、羽田中学校にOGCルームを設置する予定です。同時にOGCルーム専用コンテンツ「OGC City」の中学校版の制作にも取り組んでおります。

今後、成果の検証を進めながら、OGCルームを順次、他校に展開し、大田区ならではの英語学習を展開していきたいと考えております。

第二は、TGGにおける体験学習を拡充することです。TGGにおける体験活動は、日常の学習で習得した英語力を活用して、エージェントと呼ばれる外国人とともに丸一日、もしくは半日、まさに英語漬けの時間を過ごしながら、英語のみでコミュニケーションを図ることに挑戦し、自らの英語力の課題や成果を見極め、様々な体験を通して課題解決を行う英語力を試す場であります。

今年度は、小学校第5・第6学年、中学校第2学年の希望者に対して実施しておりますが、今後、より多くの児童・生徒に自身の英語力を試し、課題解決する場を提供していきたいと考えております。

第三は、実用英語技能検定の公費受験の対象学年を増やすことです。おおた教育ビジョンに示しております成果指標には、令和10年度までの目標として、CEFR A1レベル、いわゆる英検3級相当以上を達成した中学校第3学年の生徒の割合を80%以上にすることを掲げております。現在、中学校第3学年が年1回、本成果指標の目安となる英検を公費で受験することができるようにしておりますが、対象を中学校第2学年まで拡大するとともに、小学校第6学年においても、英検のプレテストともいえる英検IBAの公費受験ができるようにしたいと考えております。

さらに、家庭においても、自身の英語力を定着させることを目標に、昨年度で運用が終了した英検学習ソフト「English 4 skills」に替わる学習教材の導入も検討しております。

児童・生徒が英検に対する興味・関心を持ち、合格に向けて英語の学習に励もうとする意欲を高めることで、成果指標の目標達成を図ってまいります。

第四は、国際交流活動の推進です。おおた国際教育推進校の2校では、様々な国との交流活動を積極的に実施し、外国の方と英語を使って話したり、日本の文化や学校について紹介したりしています。

また、今年度で38回を数える大田区立中学校生徒海外派遣では、派遣コースの一つをドイツから、時差が少なく公用語が英語であるオーストラリアに変更いたしました。派遣生徒は、区立中学校生徒の代表者として、海外の生活で得た体験や成果を発表します。今後は、派遣先の学校やホストファミリー等と連携することを通して、派遣された生徒以外のこどもたちに対しても、オンラインを活用した英会話学習を実施することを検討しております。

このような取組で、より多くの生徒が、海外にいる年齢に近い生徒や学生と英語によるコミュニケーション活動を行うことができると考えております。

これらの取組により、中学校第3学年のCEFR A1レベル（英検3級）相当以上を達成した生徒の割合を増やし、将来世界的な課題について英語で外国人と議論し、課題解

決を図ることができるようなこどもの姿を目指してまいります。

私からの説明は以上でございます。

○区長

ありがとうございました。

引き続き議題2を齋藤教育地域力担当副参事、お願いします。

○教育地域力担当副参事

私からは、資料番号2番、コミュニティ・スクールの推進についてご説明させていただきます。

初めに、「コミュニティ・スクールの目指す姿及び期待される効果」についてです。子どもたちを取り巻く社会状況や学校が抱える課題が複雑化・多様化する中、大田区では地域の教育力を生かした地域とともにある学校づくりを目指しております。

具体的には、学校運営のビジョンを学校・家庭・地域が共有し、こどもの成長を地域全体の課題として取り組む仕組みや、各学校における地域の特色を生かした仕組み、安定した協議の中で持続可能な仕組み、コミュニティ・スクールと地域学校協働本部が相互にパートナーとして支え合う仕組み、学校を核とした新たなコミュニティ創出の仕組みとなるコミュニティ・スクールづくりを大田区としては目指しております。

これにより、「学校」においては、地域の多様な人材活用による特色のある学校運営の実現や、地域の方々の新たな発想による課題解決、教職員の働き方改革につながる地域による教育活動支援といった効果が、また、「地域」においては、防災活動や地域行事への参加等による地域活性化への促進、地域における世代間交流の促進、やりがいの創出、地域への愛着を生む将来の地域の担い手の育成といった効果が、また、「家庭」においては、充実した学校生活を送るこどもの生き生きとした姿、地域に支えられ子育てしやすい安心感、地域交流等による親子での地域参加といった効果が、期待されるところでございます。

続きまして、資料左下、大田区でのコミュニティ・スクールの推進についての位置付けについてです。

資料でお示ししているとおり、「大田区実施計画」及び「おおた教育ビジョン」において、「コミュニティ・スクールの推進」を掲げており、大田区としても、コミュニティ・スクールの推進を非常に重要な施策として位置付けております。

続きまして、資料右上、コミュニティ・スクールの「導入状況及び今後の予定」についてです。

令和4年度にコミュニティ・スクールとして、モデル校5校を導入して以降、順調に導入校の拡大を進めており、令和7年7月末時点で、区内の小・中学校全体で87校中47校が導入済みとなっております。

また、令和8年度までに全コミュニティ・スクールを導入するため、現在、未導入の学校との間において、学校運営協議会の設置に係る準備作業等の調整作業を進めておるところでございます。

続きまして、「コミュニティ・スクールの情報共有の重要性」についてご説明いたします。

コミュニティ・スクールが有効に機能するには、学校運営協議会における各委員の情報の共有が最も重要であり、文部科学省作成の「コミュニティ・スクールパンフレット」においても、情報共有の重要性について言及しております。

資料右側中段の左の図をご覧ください。各委員における徹底した情報共有に基づく熟議を行い、熟議に基づく課題、目標のビジョンを関係者間で共有し、その課題や目標を解決するために協働することで、成功体験及びその共有といった一連の好循環が生まれます。

一方、右の図のように情報共有が不十分だと、課題や目標のビジョンが各委員間で共有されず、ビジョンが曖昧なままでは各委員からの十分な理解が得られないため有効な協働もできず、その結果、成功体験につながらないといった悪循環に陥り、せっかくのコミュニティ・スクールの機能がうまく生かせないこととなります。

こうした観点から、コミュニティ・スクールを上手に機能させるためには、各委員の間において情報共有を徹底することが大変重要となります。

続きまして、資料右下の「学校運営協議会における課題」についてご説明いたします。

コミュニティ・スクールの制度を生かしていくためには、先ほどご説明した各委員で共有した情報に基づき、学校運営協議会において、熟議を行うことが大変重要となりますが、学校運営協議会の前身である地域教育連絡協議会からの進展が見られないコミュニティ・スクールも見受けられます。

具体的には、学校運営協議会において学校側からの報告を各委員が聞くだけにとどまり、コミュニティ・スクールに求められる熟議まで発展していない、または、学校運営協議会の委員として出席しているにもかかわらず、特段の意見や発言をしない委員が多数いるといった状況です。

こうした状況では、コミュニティ・スクールを導入した意義を見出せず、大田区がコミュニティ・スクールとして目指す姿である「学校を核とした学校・家庭・地域をつなげるコミュニティ・スクールとしての役割を果たす」ことが実現できません。

このため、コミュニティ・スクールを有効に機能させるためには、協議会での議論を円滑に進めるファシリテーターの役割が大変重要と考えます。

一方で、教育委員会では、現在、ファシリテーターとしての役割を担うこととなるコーディネーターが6名のみとなっております。

区内の87校全校がコミュニティ・スクールとなる令和8年度以降、現在の人数では1名当たり15校程度のコミュニティ・スクールを担当することとなります。こうした状況では、各コミュニティ・スクールにおいて、ファシリテーターとしての十分な役割を担うことが大変難しいと考えられます。

このため、今後、大田区として、コミュニティ・スクール制度を有効に機能・活用していくためには、ファシリテーターの役割を担うコーディネーターの人員増強が不可欠だと考えております。

続きまして、裏面をご覧ください。

こちら、コミュニティ・スクール導入校における好事例について掲載しております。

各校の取組事例に関しまして、こちら全てをご説明することは割愛させていただきますが、例えば事例の2につきまして、こちら雪谷中学校では、こどもたちの自主的な活動を支援し、生徒のアイデアを形にする力となるために、生徒たちから何をしたいのか、学校

運営協議会と生徒会で企画会議を実施し、その結果、生徒たちの意見を踏まえ、生徒たち自ら企画した「雪中祭り」を実施しております。

このように、こちら資料に掲載させていただきましたとおり、各校の取組事例に关しましては、コミュニティ・スクールの導入をきっかけに学校・家庭・地域の連携・協働による、様々な取組や地域活動が活発に行われているところでございます。

以上、私からの説明となります。

○区長

ありがとうございました。

ただいま、議題1及び議題2について説明がありました。それぞれの議題について、委員の皆様にご意見を伺いたしたいと思います。

それでは、大変恐縮なのですが、私から指名をさせていただきたいと思ひます。順番をご指名させていただきたいと思ひますので、お願いいたします。

まず、議題1について、三留教育長職務代理からご意見をお願いいたします。

○三留教育長職務代理者

教育委員の三留でございます。

おたグローバルコミュニケーションについて、私の考えを述べさせていただきます。

おたグローバルコミュニケーションにつきましては、大森東小学校、羽田中学校がおた国際教育推進校として先行実施を始めているという説明がございました。

大森東小学校では、異なる国や地域の伝統や文化を尊重し、多様性を認め合える心身の育成、英語やその他の言語を活用して、自ら積極的に周囲とコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を目指して実践を進めております。

独自のOGC科の授業が設定され、低学年・中学年で年間70時間、高学年で年間90時間行われています。

中学年では、少人数クラスの実施、高学年ではOGCティーチャーやアシスタントラングージティーチャー、いわゆるALTと言われる外国語教育指導員を効果的に活用して、ネイティブスピーカーと指導者の2名体制でOGC科の授業を実施するなどして、授業の英語による実践的なコミュニケーション能力を高めております。

低学年から、ゲームなどを通してのリスニングの機会を増やすとともに、高学年ではネイティブスピーカーのALTによるオールイングリッシュの英語のシャワーを浴びるような学習は、児童にとって貴重な体験と考えております。

また、各教科・領域と関連させて、国際教育を年間指導計画に位置付け、児童の国際感覚を高める教育活動も推進しています。

さらに、羽田イノベーションシティでの外国人との国際交流学習、台湾の小学生を招いての交流会など、様々な実践があります。他地区、他県の取組と比べても大変先進的な取組をしていると思っております。

羽田中学校では、おた国際教育推進校として昨年度から活動を始めております。学校だよりの文書によりますと、国際教育とは、地球人としていろいろな課題を考えられるようにする教育、個人や自分の国だけの損得を考えるのではなく、地球規模での大きな課題

を自分事として考えるようにすることとしています。

そのために、「世界中の人と協力できる」、「国際交流言語（英語）の習得」、「活動が世界につながくことを意識できる」、こうした人物の育成が大切であるとしています。こちらもOGCティチャー（ALT）を活用した外国語教育を進めるとともに、国際交流活動を積極的に行うなど、国際教育としての優れた取組が進んでいると思います。

こうした教育実績については、区内全体に広がるようにしてほしいと思っています。大森東小学校でも設置している海外体験ルームOGCルームでは、こどもたちが圧倒的な臨場感・没入感の中で英語を通じた交流をすることができ、プロジェクションマッピングの整備とともに、全校に拡充していくことに賛成いたします。

それとともに、体験型の英語学習、TOKYO GLOBAL GATEWAYでのこどもたちの体験が増えることも必要と感じました。

また、実用英語技能検定の公費受験の対象学年を増やすことも、こどもたちが積み上げてきた英語学習の成果を実感させるために必要と思いました。

指導課長の話していた小学校6学年での英検IBAの公費受験もなされるように期待しているところでございます。

以上でございます。

○区長

ありがとうございました。

それでは、次に、深澤委員、お願いできますでしょうか。

○深澤委員

深澤でございます。

大田区は、おおた教育ビジョンで世界とつながる国際都市おおたを担う人材を育成するため、おおたグローバルコミュニケーション、いわゆるOGCを重点事業とし、英語での実践的なコミュニケーション能力を高めることを目的としています。

OGCでは、様々な取組をしていますが、その中でも私は大森東小学校で実施されている海外体験ルームと、TOKYO GLOBAL GATEWAYでの英語学習が特に有用であることから、今後対象となる学校や学年を増やし、より多くのこどもたちに体験していただきたいことについてお話いたします。

大森東小学校では、外国の街並みを仮想現実で映し出す海外体験ルーム（OGCルーム）を設置し、英語学習に活用しています。壁三面に大きく映し出された外国の風景に囲まれ、ダイナミックな臨場感と、OGCティーチャーの相乗効果で、こどもたちは楽しく、かつ効果的に英語によるコミュニケーション能力を向上させていると報告を受けています。

実際に授業を見に行くと、こどもたちは英語で話している事柄について理解しようと主体的に取り組んでいました。英語を理解できた、自分の英語が通じたという成功体験が、英語でのコミュニケーション能力を向上させ、自信ややる気につながっていると感じました。

教科書を用いた文法を含む座学も英語力の向上に必要ですが、コミュニケーション能力を高めるという意味では、実際に海外にいるような環境を体験するOGCルームでの学び

が効果的です。

大森東小学校では、令和5年度からOGCルームを使用した英語学習をはじめ、令和6年度に公費負担で小学校6年生が実用英語技能検定を受検したところ、先ほど報告にありましたように、約80%の児童が5級に合格をしております。

また、英語が嫌いという児童はおらず、英語が苦手と回答した児童は全校で3%ほどであったと聞いております。英語の習得とともに、英語好きなこどもが増えていることが数字上表れています。

今年度OGCルームを羽田中学校にも設置する計画ですが、大森東小学校で実際に効果が上がっていることを踏まえ、ネイティブスピーカーと会話のキャッチボールをする、双方向の英語の学びを区内全域の小・中学校に展開していただきたいと思います。

次に、TOKYO GLOBAL GATEWAYについてですが、TOKYO GLOBAL GATEWAYはお台場にある体験型英語学習施設で、大田区では小学校5年生、6年生と中学校2年生の希望者が参加しています。私は、昨年、同行しましたが、アクティビティの最初は、こどもたちがまだ外国人と英語で話すことに慣れていないという印象を受けました。話したいけれども、英語が口から出てこなくてもどかしいという感じでした。

しかし、どのこどもたちもTOKYO GLOBAL GATEWAYに参加することを希望するだけあって、英語に興味があり、意欲的に取り組もうとしていました。TOKYO GLOBAL GATEWAYの講師は、こどもたちの能力に応じて理解できる英語で話しますので、こどもたちは自分の言葉で、外国人とコミュニケーションができたという喜びを感じているように見受けられました。

その様子を見て、自分の伝えたいことを相手が分かってくれる成功体験が、こどもたちの、もっと外国人と話ができるようになりたい、英語を勉強したいという意欲につながるのだと思いました。

そういう意味で、こどもたちには英語を実際に使い、コミュニケーションする場が必要です。OGCルームは、こどもたちが海外を疑似体験する場として大変有用ですが、学校ではないTOKYO GLOBAL GATEWAYに行き、海外のレストランやホテルなどを模した施設で、そこで初めて会った様々な外国人たちと日常会話をするという経験は、OGCルームとはまた異なる海外疑似体験で、こどもたちにとってとてもよい刺激になると思います。

現在は限られた学年の希望者のみが、本取組の対象者となっておりますが、より多くの学年の児童生徒に体験していただきたいと思います。

最後になりますが、英語力を実践的なものとするために、こどもたちが日本にいながら、様々な海外疑似体験をすることは有用なことです。しかし、それと同じぐらい大切なことは、英語の授業に関わる教員やALTの指導力に磨きをかけていただくことだと思います。

TOKYO GLOBAL GATEWAYの講師は、こどもたちが理解しやすい英語を話し、こどもたちが英語を楽しめるように研修を大切にしているとのことでした。

大田区でも、OGCルームをおおた国際教育推進校以外の学校に設置するなどと並行して、先行実施している大森東小学校の取組を生かして、OGCルームの有効な活用方法をぜひ研究していただき、効果的な英語学習の指導方法を、教員やALTに習得していただ

くことをぜひお願いしたいと思います。

以上です。

○区長

ありがとうございました。

それでは、次に、藤井委員、お願いします。

○藤井委員

藤井です。

おたグローバルコミュニケーションの推進につきまして、意見を述べさせていただきます。

先ほど、木下指導課長から丁寧なご説明がございましたが、これらの取組はグローバル化の進展する現代社会において、こどもたちの将来を見据えた、極めて重要な施策であると考えております。

とりわけ、小・中学校の早い段階から英語教育に力を入れることには大きな意義があります。日本においては、意識的に機会を設けなければ、他国の文化や言語に触れることが難しい環境であることは否めません。そのため、成人してから英語の必要性を感じても、既に言語を外国語、あるいは異質な文化に属するものとして捉えてしまっている方が少なくない、そのことが学習への大きな障壁となっているのが現状だと思われま

す。言語は文化と不可分なものであり、英語も単なるコミュニケーションの手段にとどまらず、その背景にある多様な価値観や思考様式に触れることで初めて真に意味のある言語体験となります。

こうした文化的側面への感受性は、思考が柔軟で好奇心にあふれるこども時代にこそ養われるものであり、できる限り早い段階で異文化との出会いを提供することが、長期的に見て、こどもたちの人間的成長に大きな影響を与えるものと考えております。

自分とは異なる背景を持つ、ほかの人と当たり前に共存する力を養うことで、真のグローバル人材として今後の社会において活躍できると確信しております。

また、そうした力を養うことは、将来の進路や生き方の選択肢を広げることにもつながります。

さらに、AIの進化によって、翻訳や会話支援のツールは格段に高度化していきませんが、言語は単なる情報伝達的手段ではなく、AIでは代替できない人間同士の対話力こそが、これからの時代において、ますます重要になると考えております。

英語を使って他者と関わる実体験を通じて、こどもたちは自らの視野を広げ、異なる立場に立って考える力を養い、同時に自分の考えを深め、表現する力を身につけていきます。

英語は目的ではなく手段ではありますが、その手段を持つことによって、自分とは異なる価値観や常識に敬意を持って向き合い、より説得力ある形で世界に向けて発信ができることと考えます。

国際的な人や情報へのアクセスがかつてなく容易になった現代において、グローバルな視野や発信力が備わっていなければ、その関わりは自己本位な交流に終始してしまいます。

こどもたちが自信と誇りを持って自らの言葉で発信し、より広い世界を自分事として捉

える力を育てていくために、学校教育の中で英語を実際に使いながら学ぶ環境を充実させることは、今後ますます重要になると考えております。

以上です。

○区長

ありがとうございました。

それでは、今、お三方からお話もございましたけど、その辺も踏まえて、教育長、いかがでございますか。

○小黒教育長

このおたグローバルコミュニケーション、英語教育、国際教育というのが大田区の教育の大きな柱になっているのだと思います。

もう一つのテーマが、コミュニティ・スクールということですが、この大きく変化する社会の中で、シンク・グローバリー、アクト・ローカリーという言葉があるかと思えます。国際的な視野で考えて、行動は地域から、身近なところから行動するという言葉、この二つの方向を同時にぐっと進めて、そういう子どもたちを育てていくというのが、大田区の教育の特色かと思えます。

特に、羽田空港があつて国際教育が盛んな大田区、または地域力。地域の人たちが子どもたちのことを一生懸命考えて、そういう取組はまだたくさんあるという意味では、シンク・グローバリーですか。それからアクト・ローカリーということが大田の教育の、本当に柱になるかと思えます。

その中で、グローバルコミュニケーション、英語力ということですが、生活をやる上でも、これから仕事をしていく上でも、英語の力というのはますます必要になってくるのかなと思えます。

先日、オーストラリアの海外中学生の派遣に行つてまいりました。数日の体験なのですが、子どもたちが大きく意欲的に英語を話す姿を見ました。2日間、現地校に行つて、一緒に授業に出るのですが、バディといつて、オーストラリアの子どもと一緒に勉強していたのですね。

私が行つたときは、それのお別れ会といつか、交流会をやつていたのですが、盆踊りを一緒に踊つていました。初めは、盆踊りはオーストラリアの子どもたちは何のことかよく分からなかったのですが、見よう見まねと一緒に並んでお話をしたりしながら、やつていく姿を見て、こういうふうによつて交流していくのだなというふうには、そこで言葉を交わしたり、とてもよい体験だったなと思えます。

全ての子どもがオーストラリアに行けるわけではないのですが、自分の言いたいことが英語で話して伝わつたのだという喜びとか、それがやはりコミュニケーションの喜びだと思うのです。そういう機会を増やしていく、そういう英語教育は充実する必要があるのかなと、改めて思いました。

A L Tであるとか、習熟度別であるとか、O G Cルームであるとか、従来の英語の授業をさらにアクティブに英語で話を、やり取りをするというような機会を増やすことですね。O G Cルームは非常に有効ですし、大森東小学校の実際の子どもたちのそういう姿とか、

羽田中学校も英語にすごく自信を持って、オーストラリアに行って、引率して行った教員が、羽田中学校の教員だったのですけども、一緒に行くことで随分意欲を持って、これも教員の研修になるのかなと思いました。そういう意味で大きく英語教育をさらに進めていく上では、ALTであるとか、OGCルーム。そういうものを活用しながら、英語を話せてよかった、そこで国際的に活躍していこうとか、そういう気持ちで大田の子どもたちが持てるようになればよいなと思っております。

以上でございます。

○区長

まずは、グローバルコミュニケーション、おたグローバルコミュニケーションOGCの推進について4人の先生方からご意見をいただきました。

三留委員からは、大森東小学校のOGCルームの成果というものを、非常に評価をしていただいている、他自治体と比べても先進的な取組であるというようなことのご発言がございましたし、また、こういった英語のシャワーと表現をされていましたが、圧倒的なOGCルームというのは臨場感や没入感、そういった中で英語を通じて、子どもたちが学習交流をしている、他校への拡充についても、そう進めるべきではないのかというようなお話も出ました。

また、英検I B Aの公費受験も、これもしっかり充実をしていったらよいのではないのかというご意見をいただいたところでございます。

深澤委員からは、大森東小学校での成果を踏まえて、ネイティブスピーカーとの双方向の英語の学びを区内全域に展開して行ってほしいというようなご意見がございました。

小学生の時代から英語を生活を通じて学んでいくということは、本当に国際人としての英語に対する苦手意識が少なくなっていくのではないのかというようなお話もいただきました。

現在、TGG、TOKYO GLOBAL GATEWAYのほうの、まだそちらに参加をしている児童・生徒が限られているのではないのかというようなお話もございました。より多くの児童・生徒に体験してもらいたいというご意見もいただいたところでございます。

そして、こういった指導をする側、授業に関わる教員やALT、外国語教育指導員、これは大事です。この外国人の先生ですか、こういった方の教え方、人間性、こういったものも非常に大事なのだろうなというふうに思いまして、そういった先生方を通じて、教員の指導方法をしっかり習得してもらいたいのだというようなご発言がございました。

藤井先生からは、医師の立場から、文化的側面への感受性は、思考が柔軟な子ども時代に養われているため、早い段階で異文化と出会うことが人間的成長に大きな影響を与えるということをご指摘いただいた上で、真のグローバル人材として社会で活躍をしていてもらいたいのだというようなお話や、また、本当にこういった体験というのは、言語が単なる情報伝達の手段ではなくて、AIでは、できるものではない人間同士の対話力、表現力こそがこれからの時代において重要になるというような大変貴重なご意見をいただきました。

そんな中で、OGCルームの活用とTGGの相乗効果というものが、とても大事になっ

てくるのではないのかなと、そういった中で、まず、小学生の間に英語に親しみ、生活の中で英語を自分の体の一部とする、表現力とする、そういった中で、今度は中学生になって、海外派遣にご自身の意思を示し、体験をしていくということが、教育長からもお話がありましたけれども、こういったことを、つながりをしっかりとつくりながら、大田区ならではの英語教育というものをしっかりとこれからも取り組んでいくということが、私も非常に大事なことはないのかなというふうに委員の皆様のご意見をお伺いしながら感じたところでございます。

ちょっと確認のためにお伺いをしておきたいのですけれども、大森東小学校のOGCルームは、言ってみれば、ほかの学校からも使えて学べるわけですね。この利用状況、それから、TGGへの、これは私も予算査定のときにお伺いしたのですけれども、全員に行かしたいのだという、教育総務部をはじめ、教育委員会の皆さんのそういう熱い思いを伺いましたけれども、参加したいという生徒、意外と夏休みは部活もある、サマースクールもある、楽しいご家庭での旅行もあるという中で、意外と皆さん手を挙げないというようなことも伺ったのだけど、OGCルームの活用状況と、TGGへの参加状況、このところを教えてくださいませんか。

○指導課長

OGCルームの他校の利用については、検討はしたのですけれども、現状としては、まだ実現していない状況でございます。その大きなネックとなっているのが授業時数の確保というところで、移動時間を含めて他校のこどもたちが大森東小学校のOGCルームを活用するという事は、現在できていない状況ですが、今後も検討はしてまいりたいと考えております。

あと、TGGの中学生の夏休みにおけるイングリッシュキャンプの参加状況ですけども、区長おっしゃるとおり、なかなか参加者数が少ない状況でございます。今年度においても、同じ状況でございました。

やはり、授業時数として授業の中で、このTGGを体験するという事も大切であるなということで、ぜひそこもご協力いただければと考えております。

以上でございます。

○区長

まだまだそういった課題もあるということは事実でありますし、そして、それはなかなか遠くの学校の児童・生徒が大森東小学校までOGCルームを活用しに、なかなか来られないという、そういったことも事実であろうかと思えます。そういうことも踏まえてというご意見をおっしゃっていただいているのだと思えます。

そういった、ある意味では、ぜひこれは、学校を選ぶ場合のそれぞれ地域にお住まいの小学校のエリアというのがありますので、なかなか大森東小学校のOGCルームで勉強したいというこどもたちを、これはある意味では学区の垣根を外して、これからは、例えば受け入れていくとか、そういったことも一つあるのかなとも感じております。

いずれにしても相乗効果で、まさに今、大田区が英語教育、大田区の素晴らしい特色として進めているということ、よりこれを進化させていく、こういうことは、今、ご意見

をいただいた先生方からのご意見、総合的にそういったことが言えるのではないのかなとも思っているところでございます。

今、私のほうから、委員の先生方にご指名をさせていただきましたけれども、このグローバルコミュニケーションのほうで、高橋委員や北内委員から、ご意見はございますか。よろしいですか。

○高橋委員、北内委員
いいです。

○区長

よろしいですか。

ありがとうございます。時間のほうも押してまいりましたので、次に移らせていただきたいと思います。

それでは、次に、議題2について、委員の皆様にご意見をお伺いしたいと思います。それでは、まず、再び三留教育長職務代理者からよろしくお願ひします。

○三留教育長職務代理者

よろしくお願ひします。

それでは、コミュニティ・スクールの実施について考えを述べさせていただきます。

大田区のコミュニティ・スクールは、令和4年から暫時実施を進め、来年度までに全校実施という話がございました。

コミュニティ・スクールの目指すところは、地域と学校が協力して、こどもたちの教育を支援すること、地域住民が学校運営に参画することで、地域に根差した特色ある学校づくりを進めることになると考えております。

コミュニティ・スクールを導入することで、学校運営の改善や地域活性化、こどもたちの社会性育成など多岐にわたるメリットが期待できます。

大田区では、令和4年度のコミュニティ・スクールの開始の以前から、モデル校事業の実施を進め、様々な実績を積み上げております。コミュニティ・スクールの基本的な姿勢、熟議を積み上げる運営の在り方、地域の人々の教育活動の参加など、様々な提言がなされてきました。

こうした先行実践をもとに、より特色ある充実した取組を各校で進めてほしいと思っております。

今年2月に、文部科学省の全国市町村の教育委員が集まる研究協議会があり参加いたしました。そのときの分科会は、コミュニティ・スクールについての意見交換でした。

各市区町村の教育委員会からの発言のほとんどは、学校応援団としての取組、地域行事との関わりなど、地域に関する実践例でございました。大田区でも、特色ある地域に関わる様々な実践が生まれております。

協議会では、コミュニティ・スクールの役割として、社会教育や地域づくりの側面があるという話もございました。今後の実践として、大田区らしい地域と連携した取組をさらに進めてほしいと思っております。

副参事からは、コミュニティ・スクールを運営していく上での課題も示されました。学校教育に関わる意見や熱い思いを各委員が披瀝し合い、学校改善が進められていくような実践例を期待しているところでございます。

それが地方教育行政の組織及び運営に関する法律に示された、学校運営の基本的方針の承認、学校運営の意見などの活動の充実につながっていくのではないかと考えております。

コミュニティ・スクールに関わっては、地域学校協働活動の推進にも期待しております。地域学校協働活動とは、これまでスクールサポートとして活動してきた学校支援地域本部の活動を学校と地域の双方向の活動として発展させたものと捉えてよいと考えています。

これまでは、学校が支援を受けることだけでしたが、これからは学校が地域のために何ができるか、こういう視点も大切になると思います。

学校運営協議会と地域学校協働本部が連携した、地域密着型活動にも期待しているところでございます。

以上でございます。

○区長

ありがとうございました。

それでは、次に、高橋委員、お願いします。

○高橋委員

高橋です。

私からは、コミュニティ・スクールの推進についてです。

各小学校、中学校では、毎月学校だよりを発行し、保護者、そして学校に関わる地域の方々に配布しています。校長先生、ときには副校長先生の挨拶や思い、指導に関する事などとともに、今月の予定、こどもたちの活躍した報告、情報や諸注意、様々な学校の様子など、こどもたちのことが学校だよりを通して知ることができます。

地域教育連絡協議会の委員は、学校だよりや学校公開、運動会、発表会などの行事に訪問することで、学校やこどもたちを身近に感じていました。しかしながら、協議会では、学校の報告、委員からの報告になっていました。

令和4年度から進めているコミュニティ・スクールは、地域教育連絡協議会からの発展が不可欠であり、地域の宝であるこどもたちの成長を見守り、地域とともにある学校づくりを応援するものであることが重要です。

報告にありましたように、導入校は増加し、令和8年度には全校導入する予定になっていますが、学校運営協議会委員が学校改善に寄与できるように、意識改革が必要となります。

地域教育連絡協議会と異なるコミュニティ・スクールが有効に機能するためには、委員のスキルアップのための研修の必要性、そしてファシリテーターとしての役割を担う教育地域力推進コーディネーターが不可欠になります。

現在6名で導入校を担当していますが、87校がコミュニティ・スクールに拡大した場合に、目指す姿、期待される効果を実現するためには、十分なコーディネーターの人員配置が必要となります。コミュニティ・スクールが有効に機能できるよう望みます。

学校、地域が協働し、こどもたちのために何ができるか共に考えられるよう期待しています。

そして、教育ビジョンにもある、地域や社会をよくするために何かしてみたいと思うというこどもたちにも、気持ちが通じることを願っています。

以上です。

○区長

ありがとうございました。

それでは、次に、北内委員、お願いします。

○北内委員

北内です。

コミュニティ・スクールは、学校運営協議会を設置した学校をいい、学校と地域住民などが力を合わせ、こどもたちのより良い環境づくりに取り組む地域とともにある学校を目指すための仕組みです。

学校運営協議会は、地域住民や保護者などから構成されます。地域の声を生かし、学校と地域が一体となって特色ある学校づくりを進めていきます。

本区は、大田区実施計画及びおおた教育ビジョン（第4期大田区教育振興基本計画）において、コミュニティ・スクールの推進を謳い、主要事業の一つとして位置付けています。

本区では、令和4年度からコミュニティ・スクールを順次導入し、着実に実績を上げてきました。

コミュニティ・スクールにおける様々な団体が緩やかなネットワークを形成することによる新しいつながりは、教育地域力を充実させ、地域課題、教育課題等の解決につながる仕組みであり、地域資源ともなります。

コミュニティ・スクールの導入によって、学校は地域の多様な人材活用による特色ある学校運営の実現、地域の方々の新たな発想による課題解決、教職員の働き方改革につながる地域による教育活動の支援を、地域は防災活動や地域行事への参加などによる地域活性化の促進、地域における世代間交流の促進や、やりがいの創出、地域への愛着を生み将来の地域の担い手の育成を、家庭では充実した学校生活を送るこどもの生き生きとした姿、地域に支えられ、子育てしやすい安心感、地域交流などによる親子での地域参加などが期待できます。

例えば、出雲小学校では、海苔の老舗、守半海苔店さんと、共同で海苔を使ったレシピを開発し、昨年度のものづくり教育・学習フォーラムで販売しました。

海苔のクッキー、海苔と岩塩のパウンドケーキ、台風型海苔チーズinパイ、海苔マフィン、海苔じゃが、海苔餃子、どの商品も児童のアイデアで開発され、とてもおいしかったです。また、店主のおかみさんもこどもたち、地域のために大変協力的でした。

コミュニティ・スクールだけでなく、大田区独自教科おおたの未来づくりにも通ずる学校と地場産業が協力した好事例です。

また、別の実績例として、大森第二中学校では、学校運営協議会で学校が抱えている課題を共有し、地域学校協働本部が主体となって課題解決しました。

例えば、これまで教員が定時外で担ってきた実用英語技能検定（英検）と日本漢字能力検定（漢検）の運営（主に受付と監督）を地域学校協働本部が担うことで、生徒は在籍校で受験できるようになりました。

教員の働き方改革、定時外の監督に資するだけでなく、受験率と合格率のアップにもつながりました。コミュニティ・スクールを通して地域人材を生かし、生徒にとってよりよい結果をもたらし、さらに学校が抱える課題を解決した好事例です。

ここでは、小・中2校の好事例を紹介しましたが、他校においても着実に実績を上げています。このような好事例は、地域と学校の努力だけでなく、区教育委員会から派遣される、教育地域力推進コーディネーターの役割が大変重要です。

コーディネーターは、区教育委員会が考えるコミュニティ・スクールの位置付けを各地域、各校と共有するだけでなく、今後ファシリテーターとして、会議運営の協力及び委員のスキルアップを図り、それぞれの地域に合ったコミュニティ・スクールの有用な運営に寄与します。

現在、本区の館山さざなみ学校を除く小学校 59 校と中学校 28 校の計 87 校のうち、令和7年7月末時点で 47 校がコミュニティ・スクールを導入済みで、6名のコーディネーターが各地域、各校に赴き担当しています。

来年度、令和8年度中には全 87 校に導入予定で、コーディネーターが担うファシリテーターの役割がますます増し、有能な人材確保が喫緊の課題です。

区教育委員会が推進するコミュニティ・スクールの導入と、さらなるスキルアップを図るため、来年度の予算編成においては、ご高配のほど何とぞお願い申し上げます。

私からは以上です。

○区長

ありがとうございます。

それでは、お三方、先生方のご発言も受けて、小黒教育長、お願いします。

○小黒教育長

教育委員会としては、長い目でこれからの学校ということを考えたときに、このコミュニティ・スクールというのは、大変重要な施策ではないかと思えます。

一時、学校選択制であるとか、そういうのがあったのですがけれども、公立の学校が地域に根差した、その地域のこどもたちを育てるといふところの特色をしっかりと築き上げていくことが大事なかなと思えます。

大田区もそれぞれの地域があって、そこに住む方がいらっしゃって、先生方がいて歴史があって伝統があるわけですがけれども、その学校一つ一つが自分の学校の特色を生かして校風を生かして、しっかりと根づいていくと、そういう教育活動が行われることが、長い目でいうと大変重要な施策かなと思えます。

そういう意味で、このコミュニティ・スクールが今まで学校だけではできなかったことを開いていくと、大きな力になっていくのかなと思えます。

教育委員会で用意していただいたこのコミュニティ・スクールの推進にありますけど、これを見ただけでも、いろいろな方が参加していただいているのかなと思えます。

コミュニティ部活であるとか、池上の九九の苦手なとか、それぞれそこに住んでいる方が考えて学校の実態、そういうことを踏まえながら、個性を出して取り組んでいくということが、多彩な活動ができてきているのかなと思います。

学校のシステムだけでは、これはできないことだろうと思いますし、この中で、地域の方々も生きがいを感じて、地域の方々の活力にもなっていく、そういうコミュニティが出来上がっていくということでは、このコミュニティ・スクールが全校で、それぞれの特色ある活動、個性を持って展開していくことが、おおたの地域力と結びついた教育として大事なのかなと思います。

課題はあると思いますけれども、それぞれの学校がそれを生かせるような、アドバイスできるような、または予算をしっかりと確保できるような、そういうシステムを教育委員会としてもつくっていききたいなと思っています。

以上です。

○区長

ありがとうございました。

様々委員の皆様、教育長からもご意見をいただきました。

従来は、学校が支援を受ける側であったが、今後は学校が地域のために何ができるのかといった視点も大切である。

大田区らしい地域と連携した取組を、今後、またこのコミュニティ・スクールにおいては、しっかりと充実をしていってほしいなと私も思いました。

そういうような意味においては、現在6名の教育地域力推進コーディネーターで導入校を担当しているが、全校に拡大した場合、十分なコーディネーターの配置が必要になってくるのではないのか、北内委員は具体的には申されなかったけれども、こういったことをおっしゃっているのかと思いました。

いずれにしても、コミュニティ・スクールの導入によって、学校は地域の多様な人材活用による特色ある学校運営の実現や、教職員の働き方改革につながる地域の教育活動支援に期待をしていきたいと思うわけでございます。

様々な貴重なご意見、ありがとうございました。

議題2についてご発言いただかなかった委員の皆様、ご発言があれば、ここでいただきたいと思いますが、いかがですか。よろしいですか。

ありがとうございました。

それでは、ある程度時間もまいりましたので、この辺りで意見交換を終わらせていただきたいと思います。

委員の皆様より、大田の教育に関する様々な思い、ご意見を聞かせていただきました。誠にありがとうございました。

本日いただきました意見につきましては、引き続き、私と教育委員の皆様で情報の共有を図り、大田のこどもたちが力強く、元気で生き生きと笑顔で成長できるように、力を尽くしてまいりたいと思います。

今後とも、区の教育政策の推進につきまして、どうぞよろしくお願ひいたします。

○総務部長

本日は、活発なご発言、ご議論、誠にありがとうございました。

それでは、時間になりましたので、これにて本日の会議は閉会とさせていただきたいと存じます。

次回開催の際には、改めて委員の皆様方にお知らせ申し上げますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

本日は誠にありがとうございました。

(午後 5 時閉会)